

# 報告事項 No. 3 資料

## 1 教科に関する調査

### (1) 本市の校種、教科ごとの「比較的できている点（◇）」と「課題があると考えられる点（◆）」について

#### ア 小学校 国語

◇時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることはできている。

◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

#### イ 中学校 国語

◇表現の効果について、根拠を明確にして考えることはできている。

◆読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。

#### ウ 小学校 算数

◇伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことはできている。

◆「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。

#### エ 中学校 数学

◇必ず起こる事柄の確率について理解することはできている。

◆式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある

#### オ 小学校 理科

◇赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することはできている。

◆レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題がある。

#### カ 中学校 理科

◇科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することはできている。

◆露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できることに課題がある。

### (2) 本市の校種、教科に共通する課題

目的に応じて必要な情報を関連付けて整理し、自分の言葉でまとめたり、自分の考えを表現したりすること。

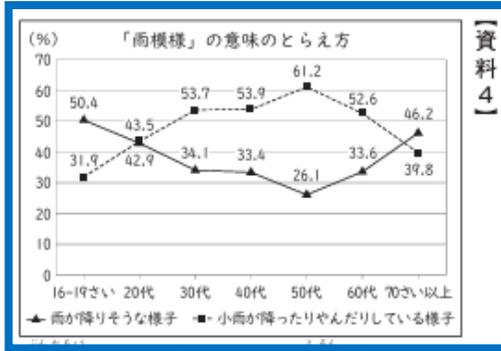
(3) 本市の共通する課題に関する設問

ア 小学校 国語

(ア) 問題 3 三 (1)

- 1 【資料1】の 部①
- 2 【資料1】の 部②
- 3 【資料1】の 部③
- 4 【資料1】の 部④

(1) 【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。



【資料4】

ぼくが読んだ二つの資料（【資料2】、【資料3】）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることになっているよ。

【話し合いの様子】

私は、この資料（【資料4】）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがいることが分かるでしょ。

田中さん

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

木村さん

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と

田中さん

書くかと思うよ。

木村さん

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

(文化庁国語課「文化庁国語課の勘違いしやすい日本語」による。)

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなったり、使い方が変わってたりする場合は少なくありません。ですから、意味や使い方に揺れが生じている言葉について、「この使い方だけが正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。

① この本を読むとお気づきになると思いますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤を軽々しく決めることはできないと考えるからです。

③ とはいえ、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。④ コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。

④ 「言葉は生きています」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと思いますと考えています。

3 木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読みました。そして、【資料1】を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。【資料1】をよく読んであとの問いに答えましょう。

【資料1】

(イ) 出題のねらい

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける。

(ウ) 正答例

3 【資料1】の —— 部③

(コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません)

(エ) 結果

a 正答率 川崎市…45.9% 全国…40.8%

無解答率 川崎市…3.9% 全国…3.4%

b 主な誤答 【資料1】の —— 部② 31.1%

(複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理できていない)

(オ) 共通する課題との関連

本市においては、説明文や物語を扱った学習で、文章の中で段落と段落、場面と場面などを比べたり、複数教材を用いて比較したりと、複数の情報を関連させた授業を展開するなど工夫が見られる。しかし、「複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理できていない」児童が、31.1%いることから、目的に応じて必要な情報を整理することに課題がある。

イ 中学校 数学

(ア) 問題 6 (2)

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 $n$ を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「      は、……      である。」という形で書きなさい。

(イ) 出題のねらい  
式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる。

(ウ) 正答  
連続する2つの3の倍数の和は、奇数である。

(エ) 結果

a 正答率 川崎市…33.1% 全国…25.7%  
無解答率 川崎市…21.2% 全国…24.9%

b 主な誤答

$2(3n+1)+1$  から読み取れないが、連続する2つの3の倍数の和について成り立つことがらを記述……15.2%  
成り立たない事柄を記述…… 9.7%

※どちらも「連続する2つの3の倍数の和」の記述がない、または、十分でないものを含む

(オ) 共通する課題との関連

本市においては、問題の条件に合わせて立式したものを、正しいと示したいことに応じて変形させる必要があることや、偶数、奇数を式で表現することについて、具体と照らして実感を伴った理解ができるようにするなど、授業に工夫が見られる。 $2(3n+1)+1$  から読み取れないことや成り立たない事柄を記述する生徒が24.9%おり、また、無回答率が21.2%であることから、 $3n+1$  が「整数」を表していると読み取ることで、 $2(3n+1)+1$  が奇数を表す  $2 \times N + 1$  という式だと捉えることができていると考えられる。与えられた式と、奇数を  $2n+1$  と表すことができるという既習とを関連付けることで、与えられた式が「奇数を表している」と表現することに課題がある。

ウ 中学校 理科

(ア) 問題 1 (3)

水道水のもとになる水について調べる



1 2 3 4

地層1



大きな粒で構成され、粒と粒の間にすき間があるので、水は通り抜ける。

れきの層

前へ ページ 1 / 4 次へ

1 2 3 4

地層2



小さな粒で構成され、粒と粒の間に小さなすき間が観察された。すき間はれきの層より小さいが、水は通り抜ける。

砂の層

前へ ページ 2 / 4 次へ

1 2 3 4

地層3



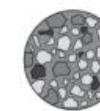
非常に小さな粒で構成され、粒と粒の間にすき間が観察されなかったため、水は通り抜けにくい。

泥の層

前へ ページ 3 / 4 次へ

1 2 3 4

地層4



小さな粒で構成され、粒と粒の間に小さなすき間が観察された。すき間はれきの層より小さいが、水は通り抜ける。

砂の層

前へ ページ 4 / 4 次へ

(3)

下線部の水がしみ出る位置として最も適切なものを、の中から1つ選びなさい。

① 最大1個選択できます

【地層の境目から水のしみ出ている露頭】



- (イ) 出題のねらい  
露頭のどの位置から水が出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる。
- (ウ) 正答  
地層 2 の下側にある青色の枠内を選んでいるもの
- (エ) 結果
- a 正答率 川崎市…38.4% 全国…36.2%  
無解答率 川崎市…0.7% 全国…0.6%
- b 主な誤答  
地層 1 の下側にある青色の枠内を選んでいるもの……21.5%  
地層 3 の下側にある青色の枠内を選んでいるもの……26.5%
- (オ) 共通する課題との関連  
本市においては、課題の解決に向けて、小学校理科教育研究会と中学校教育研究会理科部会が共催で研修を行うなどして、小学校と中学校の学びの連続性を大切にしている。しかし、主な誤答に着目すると、地層を構成する粒の大きさと水のしみこみ方について、小学校での既習事項における必要な情報を関連付けて整理し、自分の考えを表すことに課題がある。

### 3 学習や生活習慣に関する質問調査

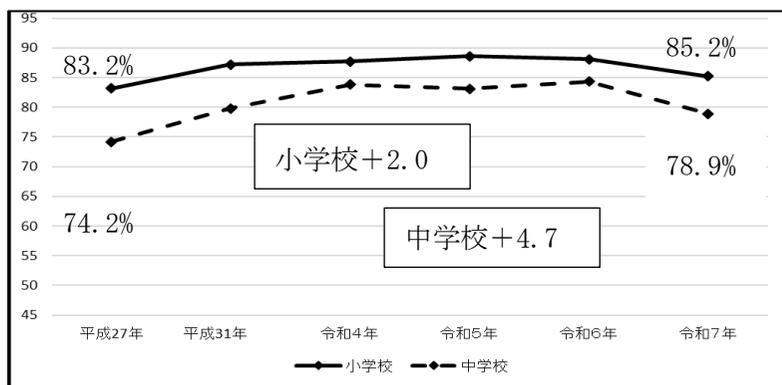
#### (1) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- ・比較数値 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した肯定的な割合
- ・注目結果 平成27年度と比較して、±5ポイント以上の開きがある場合は、⇒をつけた。(赤：小学校、青：中学校)

#### ア 国語

平成27年度と比較すると、「国語の授業の内容はよく分かる」について、小学校では2.0ポイント、中学校では4.7ポイント高くなった。

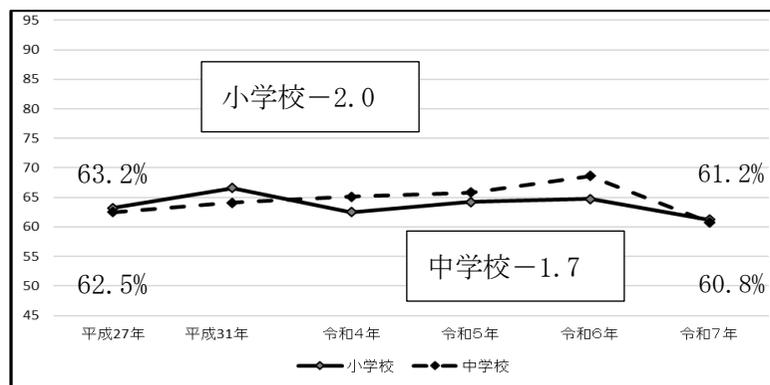
国語の授業の内容はよく分かる



	H27	H31	R 4	R 5	R 6	R 7
小	83.2%	87.2%	87.7%	88.6%	88.1%	85.2%
中	74.2%	79.8%	83.8%	83.1%	84.3%	78.9%

参考全国 R7
82.8%
77.0%

国語の勉強は好き



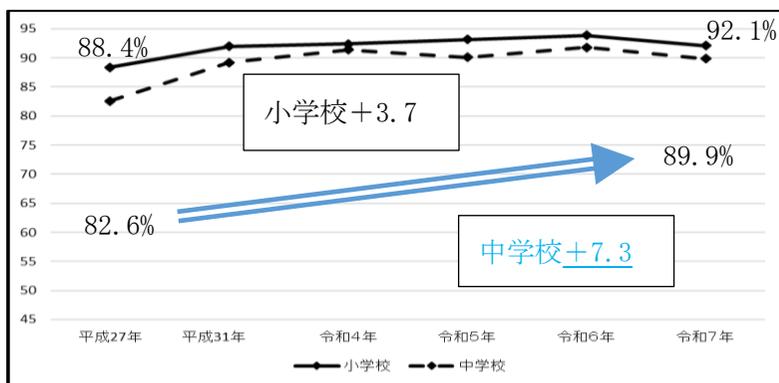
	H27	H31	R 4	R 5	R 6	R 7
小	63.2%	66.6%	62.5%	64.2%	64.7%	61.2%
中	62.5%	64.1%	65.1%	65.8%	68.6%	60.8%

参考全国 R7
58.3%
57.9%

平成 27 年度と比較すると、「国語の勉強は将来役に立つと思う」について、小学校では 3.7 ポイント、中学校では 7.3 ポイント高くなった。

今後も、「全ての子どもが分かる授業」を目指して主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、国語を学ぶ意義や言葉を扱うことよさを実感しながらより主体的に学べるよう、指導の工夫に取り組むことが重要である。

国語の勉強は将来役に立つと思う



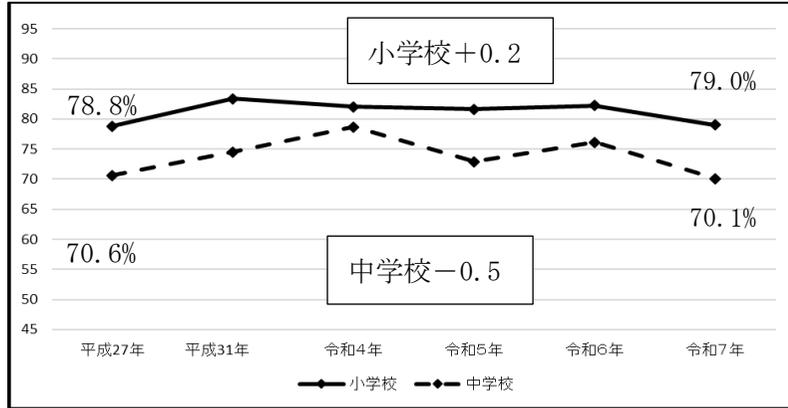
国語の勉強は得意だ

	R 7	参考全国 R7
小	64.7%	61.4%
中	54.7%	51.4%

	H27	H31	R 4	R 5	R 6	R 7	参考全国 R7
小	88.4%	92.0%	92.4%	93.2%	93.9%	92.1%	90.4%
中	82.6%	89.2%	91.4%	90.1%	91.8%	89.9%	88.3%

イ 算数・数学

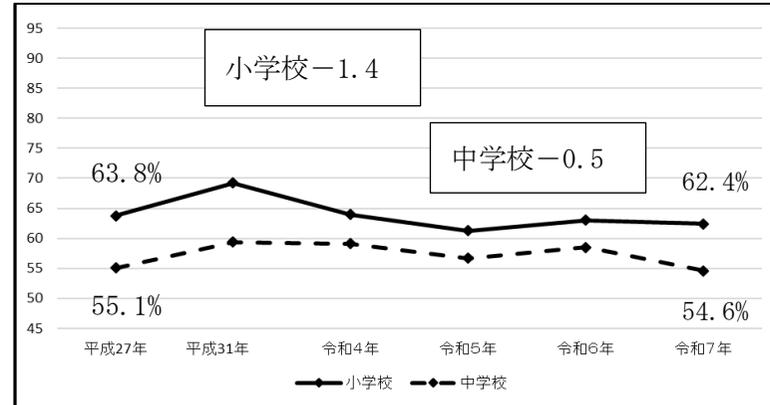
算数・数学の授業の内容はよく分かる



	H27	H31	R 4	R 5	R 6	R 7
小	78.8%	83.4%	82.0%	81.6%	82.2%	79.0%
中	70.6%	74.5%	78.7%	72.9%	76.1%	70.1%

参考全国 R7
78.3%
70.3%

算数・数学の勉強は好き



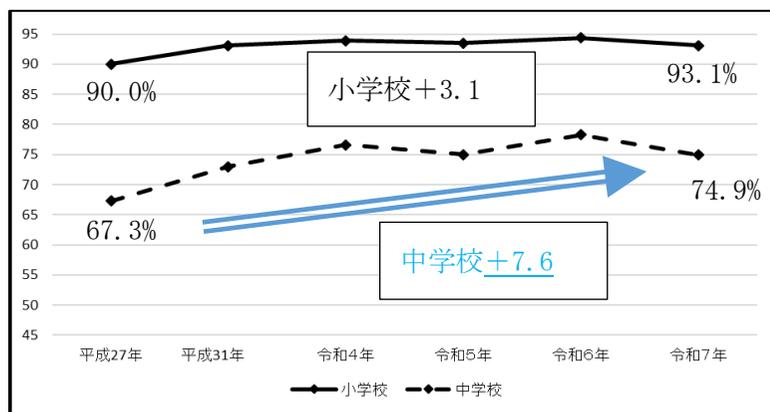
	H27	H31	R 4	R 5	R 6	R 7
小	63.8%	69.2%	64.0%	61.3%	63.0%	62.4%
中	55.1%	59.4%	59.1%	56.7%	58.5%	54.6%

参考全国 R7
57.9%
53.8%

平成27年度と比較すると、「算数・数学の勉強は将来役に立つと思う」について、小学校では3.1ポイント、中学校で7.6ポイント高くなった。

今後も、きめ細かな指導の充実を図りながら、中学校では、実感を伴って理解することができるよう、授業改善に取り組むことが重要である。

算数・数学の勉強は将来役に立つと思う



	H27	H31	R 4	R 5	R 6	R 7	参考全国 R7
小	90.0%	93.1%	93.9%	93.5%	94.4%	93.1%	91.6%
中	67.3%	73.0%	76.6%	75.0%	78.3%	74.9%	75.2%

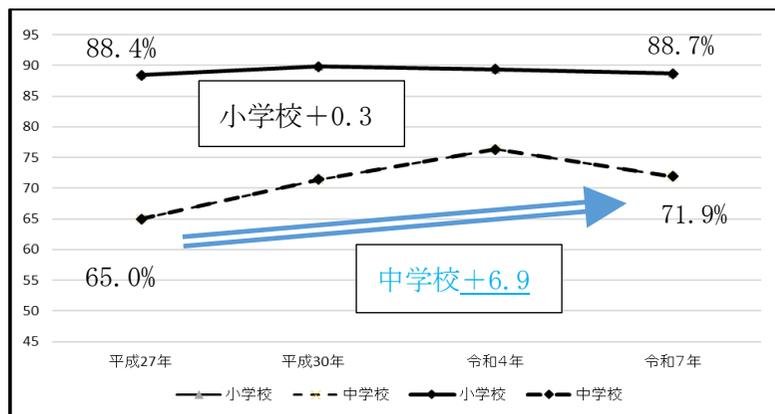
算数・数学の勉強は得意だ

	R 7	参考全国 R7
小	63.1%	60.3%
中	46.5%	46.0%

ウ 理科

平成 27 年度と比較すると、「理科の授業の内容はよく分かる」について、小学校では 0.3 ポイント、中学校では 6.9 ポイント高くなった。

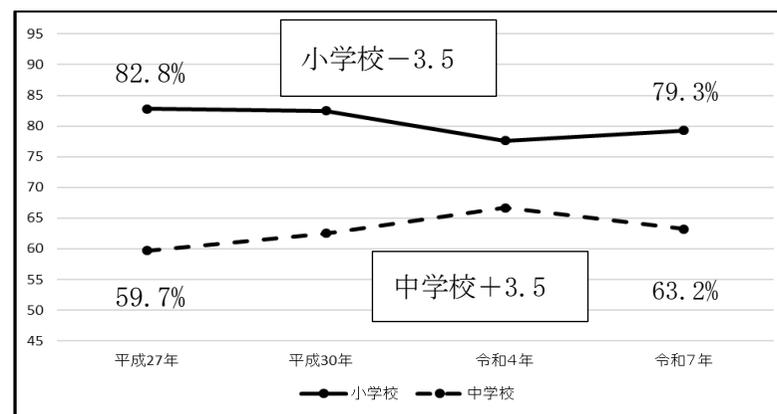
理科の授業の内容はよく分かる



	H27	H30	R 4	R 7
小	88.4%	89.8%	89.4%	88.7%
中	65.0%	71.4%	76.3%	71.9%

参考全国 R7
88.9%
71.4%

理科の勉強は好き



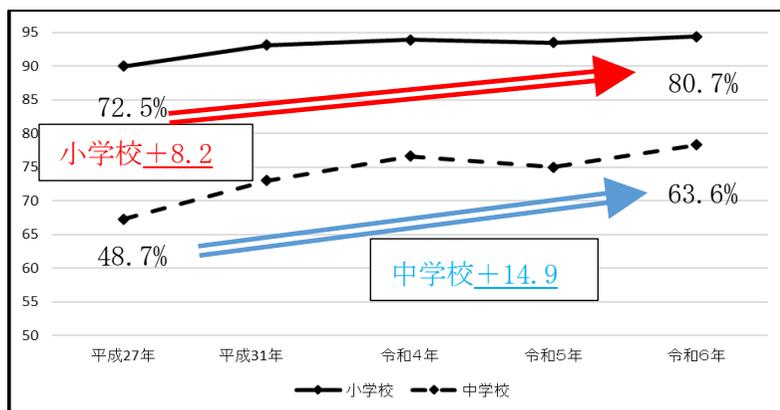
	H27	H30	R 4	R 7
小	82.8%	82.5%	77.6%	79.3%
中	59.7%	62.5%	66.7%	63.2%

参考全国 R7
80.1%
63.8%

平成27年度と比較すると、「理科の勉強は将来役に立つと思う」について、小学校では8.2ポイント、中学校で14.9ポイント高くなった。

今後も、日常生活や社会との関連を図り、児童生徒が理科を学ぶ意義や有用性を実感できるよう、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に取り組むことが重要である。

理科の勉強は将来役に立つと思う



	H27	H30	R 4	R 7	参考全国 R7
小	72.5%	72.9%	77.4%	80.7%	79.9%
中	48.7%	51.0%	60.5%	63.6%	63.4%

理科の勉強は得意だ

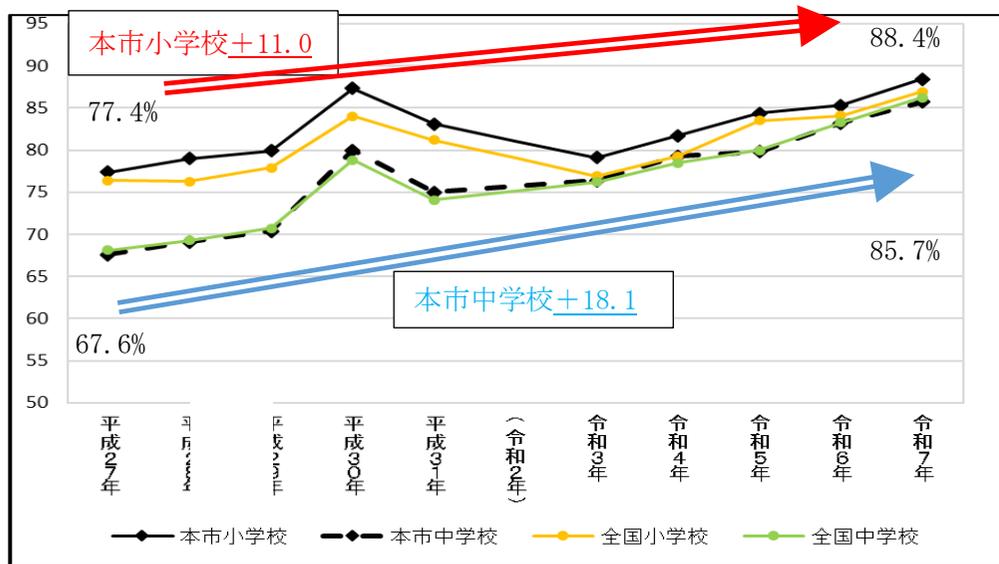
	R 7	参考全国 R7
小	76.7%	78.4%
中	51.9%	50.7%

## (2) 規範意識、自己有用感等

- ・比較数値 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した肯定的な割合
- ・注目結果 平成27年度と比較して、±5ポイント以上の開きがある場合は、⇒をつけた。(赤：小学校、青：中学校)

平成27年度と比較すると、「自分にはよいところがあると思う」について、小学校では11.0ポイント、中学校では18.1ポイント高くなった。また「将来の夢を持っている」については、小学校、中学校ともに全国と同水準となってきた。

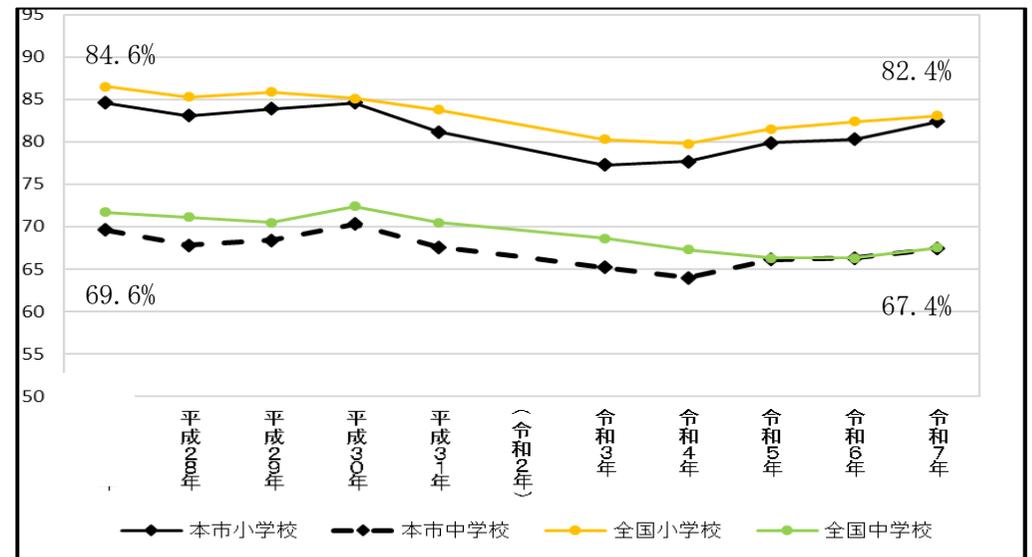
自分にはよいところがあると思う



	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小	77.4%	79.0%	79.9%	87.3%	83.1%	79.1%	81.7%	84.4%	85.3%	88.4%
中	67.6%	69.1%	70.4%	80.0%	75.0%	76.4%	79.3%	79.8%	83.2%	85.7%

参考全国 R7	
小	86.9%
中	86.2%

将来の夢を持っている



	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小	84.6%	83.1%	83.9%	84.6%	81.2%	77.3%	77.7%	79.9%	80.3%	82.4%
中	69.6%	67.8%	68.4%	70.3%	67.6%	65.2%	64.0%	66.1%	66.3%	67.4%

参考全国 R7	
小	83.1%
中	67.5%

### (3) ICTを活用した学習状況

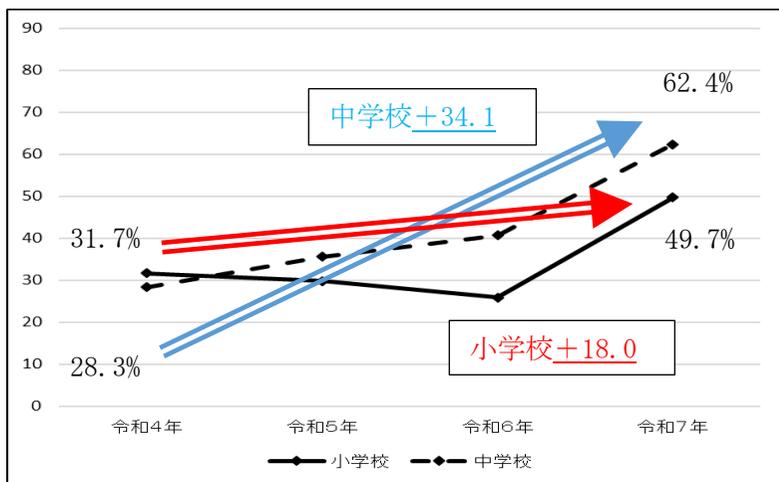
- ・比較数値 「ほぼ毎日使用している」と回答した割合、「ほぼ毎日」と「週3回以上使用している」と回答した合計の割合
- ・注目結果 令和4年度や全国と比較して、±5ポイント以上の開きがある場合は、下線をつけた。

「ほぼ毎日」と回答した合計の割合について、令和4年度と比較すると、小学校では18.0ポイント、中学校では34.1ポイント高くなった。また、「ほぼ毎日」と「週3回以上使用している」と回答した合計の割合について、令和4年度と比較すると、小学校では11.6ポイント、中学校では22.1ポイント高くなった。

5年生まで（中学校1、2年生の時）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを、どの程度使用しましたか。

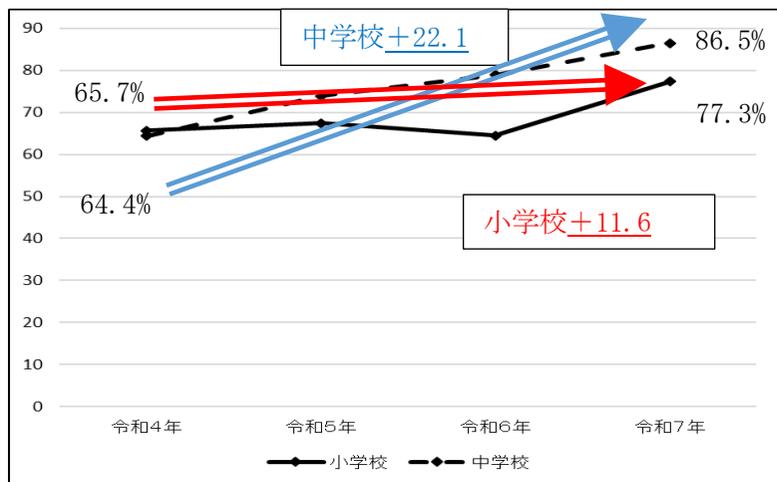
「ほぼ毎日使用している」と回答した割合

(1日に1回くらいの授業と1日に複数の授業で活用と回答した合計)



	R 4	R 5	R 6	R 7	参考全国 R7
小	31.7%	29.8%	25.9%	49.7%	46.7%
中	28.3%	35.6%	40.7%	62.4%	53.2%

「ほぼ毎日使用している」と「週3回以上使用している」と回答した合計の割合



	R 4	R 5	R 6	R 7	参考全国 R7
小	65.7%	67.4%	64.5%	77.3%	71.7%
中	64.4%	73.9%	78.9%	86.5%	76.5%

#### (4) 地域や社会に関わる活動の実施状況等

- ・比較数値 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合
- ・注目結果 令和5年度や全国と比較して、±5ポイント以上の開きがある場合は、下線をつけた。

令和5年度と比較すると、小学校では4.5ポイント、中学校では14.1ポイント高くなった。

平成28年度から全市で取り組んできた「キャリア在り方生き方教育」を土台とし、子どもたちが自分が住む地域との関わりを自分事として捉えて、主体的に学習している成果と捉えている。

##### 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

	R 5	R 6	R 7	R 5との 比較	全国 (R 7)	全国との 比較
小学校	80.0%	85.4%	84.5%	4.5	81.3%	3.2
中学校	59.5%	75.2%	73.6%	<u>14.1</u>	75.3%	-1.7